

RESULTS

《結果》

CLINICAL SIGNS 《臨床兆候》

観察期間中、どのウサギについても病気または中毒の兆候はありませんでした。

DERMAL RESPONSES (Tables 1 and 2) 《皮膚反応 (表1、2)》

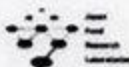
研究期間を通して、皮膚刺激性はまったくありませんでした。

CONCLUSION

《結論》

一次刺激値 (PI1) は0.0でした。リン酸チタニア溶液は、ECETOC (欧州化学物質生態毒性及び毒性センター) の基準に照らして、「刺激性なし」と分類されました。

リン酸チタニア溶液は、EC委員会指針 2001/59/ECに照らし、警告文R38「皮膚刺激性あり」のラベリングをする必要はありません。



モルモットを用いたMaximization法 による皮膚感作性試験

要 約

C.A.W 抗菌・防臭チタニアを検体として、Maximization法によりモルモットにおける皮膚感作性を調べた。

感作誘導処置として、試験動物10匹に検体原液を皮内注射し、その翌週に検体原液を48時間閉鎖適用した。この試験動物に対して、検体原液及び検体の10 w/v%溶液を用いて閉鎖適用による感作誘発を行った。その結果、適用後48及び72時間の各観察時間において試験動物に皮膚反応は観察されなかった。

このことから、検体はモルモットにおいて皮膚感作性を有さないものと結論された。

依頼者

中央自動車工業株式会社

検 体

C.A.W 抗菌・防臭チタニア

試験実施期間

平成16年4月20日～平成16年6月29日

試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所
東京都多摩市永山6丁目11番10号

試験責任者

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所
安全性試験部 安全性試験課
勝田 真一

試験実施者

嶋崎 智子 , 永井 武 , 深井 純 , 川本 康晴

I. 要 約

エコキメラ PRE-B の急性経口毒性についてラットを用いて検討した。

試験動物としてSD系ラットの雄5匹を試験に供した。

被験物質は液体であり、原液を投与試料として試験に供し、金属製胃ゾンデを用いて強制経口的に単回投与した。

試験方法は固定用量法とし、1匹用いた見当付け試験の2000 mg/kg用量で死亡がみられなかったため、主試験として同用量を4匹追加した。

生死および一般状態の観察を14日間行い、その間に体重を測定した。なお、観察期間終了後に剖検を行い、諸臓器の内眼的観察を行った。

その結果、死亡例はみられず、一般状態においても外観、姿勢および行動等に異常はみられなかった。体重は投与1日後から増加を示し、その後も順調な増加推移を示した。剖検においても被験物質投与による影響を示唆する変化はみられなかった。

以上の結果より、本被験物質はLD₅₀ > 2000 mg/kg、GHS分類は“カテゴリー5”であると結論された。

I. 要 約

エコキメラ FW-10 の急性経口毒性についてラットを用いて検討した。

試験動物としてSD系ラットの雌5匹を試験に供した。

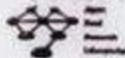
被験物質は液体であり、原液を投与試料として試験に供し、金属製胃ゾンダを用いて強制経口的に単回投与した。

試験方法は固定用量法とし、1匹用いた見当付け試験の2000 mg/kg用量で死亡がみられなかったため、主試験として同用量を4匹追加した。

生死および一般状態の観察を14日間行い、その間に体重を測定した。なお、観察期間終了後に剖検を行い、諸臓器の内臓的観察を行った。

その結果、死亡例はみられず、一般状態においても外観、姿勢および行動等に異常はみられなかった。体重は投与1日後から増加を示し、その後も順調な増加推移を示した。剖検においても被験物質投与による影響を示唆する変化はみられなかった。

以上の結果より、本被験物質はLD₅₀>2000 mg/kg、GHS分類は“カテゴリー5”であると結論された。



ウサギを用いた眼刺激性試験

要 約

C.A.V 抗菌・防臭テクニアを検体として、OECD Guidelines for the Testing of Chemicals 405 (1987) に準拠し、ウサギを用いた眼刺激性試験を行った。

ウサギ3匹の片眼に検体を0.1 mL点眼した結果、点眼後1時間に全例で眼瞼結膜の発赤が見られたが、24時間に消失した。

Draize法によって算出した試験期間中の平均合計得点の最高値は2.0(点眼後1時間)であった。

以上の結果から、ウサギを用いた眼刺激性試験において、検体は「無刺激性」の範囲にあるものと評価された。

依頼者

中央自動車工業株式会社

検 体

C.A.V 抗菌・防臭テクニア

試験実施期間

平成16年10月17日～平成16年11月1日

試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所
東京都多摩市永山1丁目11番10号

試験責任者

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所
安全性試験部 安全性試験課
勝田 真一

試験実施者

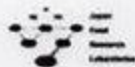
嶋崎 智子 , 永井 武 , 深井 純 , 川本 康晴

親水性防汚溶剤の評価

1. 目的

株式会社 YOO コーポレーション様製造の親水性防汚溶剤の評価

	サンプル名	上層	CW-30	CW-10	未処理
		下層	CE-10	CE-10	未処理
①	全光線透過率		92	92	91
	ヘーズ		0.1	0.1	0.1
②	接触角 (水)		3	5	35
③	防曇性		○	×	×
④	防汚性…砂汚れ		○	○	×
⑤	防汚性…皮脂汚れ		×	×	×
⑥	除去性 (乾拭き)		払拭で汚れ拭がる	払拭で汚れ拭がる	払拭で汚れ拭がる
	除去性 (水拭き)		1度の払拭で汚れ除去	1度の払拭で汚れ除去	払拭で汚れ拭がる
⑦	鉛筆硬度		>9H	>9H	>9H
⑧	耐湿性		○	○	-



突 異 原 性 試 験

要 約

C.A.W 抗菌・防臭チタニアの突然変異誘起性を調べる目的で労働省告示第77号(昭和63年9月1日)に準じ試験を実施した。

検体について、*Escherichia coli* WPZuvrA株及び*Salmonella typhimurium* TA系4菌株を用いて代謝活性化を含む復帰突然変異試験を100~500 μ L/プレートの用量で行ったところ、いずれの場合においても復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。以上のことから、本試験条件下における検体の突然変異誘起性は陰性と結論した。

依 頼 者

中央自動車工業株式会社

検 体

C.A.W 抗菌・防臭チタニア

試験実施期間

平成16年4月16日~平成16年6月9日

試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 千歳研究所
北海道千歳市文京2丁目3番

試験責任者

財団法人 日本食品分析センター 千歳研究所
安全性試験部 生物科学課
前田 貴宣

試験実施者

佐々木 愛美、秋山 尚子